

平成28年1月4日

栃木市教育委員会
教育長 赤堀 明弘 様

大平地域会議
会長 赤澤 美智子

栃木市文化振興計画実施細目（素案）について（回答）

平成27年10月9日付け栃文第574号で意見聴取のあった栃木市文化振興計画実施細目（素案）について、下記のとおり回答します。

記

- ①大平地域の納涼あじ祭について、自治会等ではお囃子を発表するため準備を進めていたが、中止になったことで発表の場を失ってしまった。中止の連絡も遅く、郷土芸能等の発表の場を増やすという方向からもずれているのではないか。
- ②地域の行事については、参加者が少ないのでやめてしまうというのはよくない。伝統行事の継承、子ども（後継者）の育成という観点からも長い目で考えていかなければならない。文化課がその指導的な立場に立っていただきたい。
- ③地域の伝統的な行事等に参加する際に、文化を継承する任務を委嘱するという意味で、市から委嘱状を交付してはどうか。自らが文化を継承する役割を担っているという意識を持つことが、伝統芸能の継承意識の啓発になるのではないか。
- ④指定無形民俗文化財伝承補助金の実績として、実際に補助金を出しているものを記載したほうがわかりやすい。
- ⑤文化振興の核となる団体の充実については、文化活動は同好の集まりと位置づけ、各種同好団体同士、文化祭を各地で同時に開催する。さらに各地の団体同士を結び、組織化し、1ヵ所で発表会を開催する。また、事務局は費用と場所の確保、事前の広報活動等を行い、より多くの集客ができるように周知徹底を図る。

⑥郷土芸能等への支援・活用については、郷土芸能そのものが歴史に裏付けられたものであるため、統一した方向へ進めることは不可能であると思われる。そこで、各地区自慢の芸能を一堂に集め、披露し、参加者に順位を決定してもらいイベントを開催してはどうか。また、同時に各地区の食材を使った料理等も提供することにより、大きな話題を提供できると思う。